

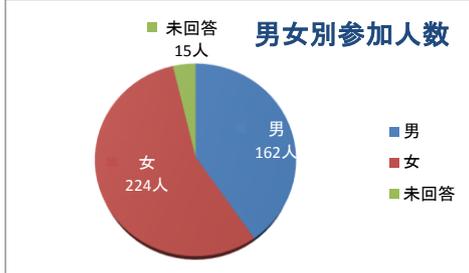


《 アンケート集計結果 》

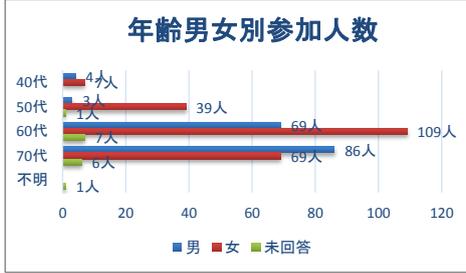
参加者数	599人	アンケート回収	401人	回収率	66.9%
------	------	---------	------	-----	-------

【1】参加者属性

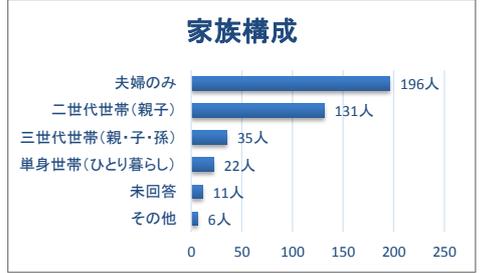
◆性別



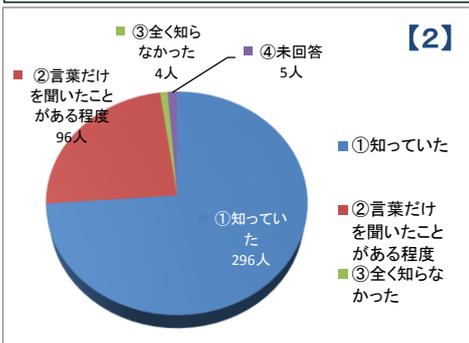
◆年齢



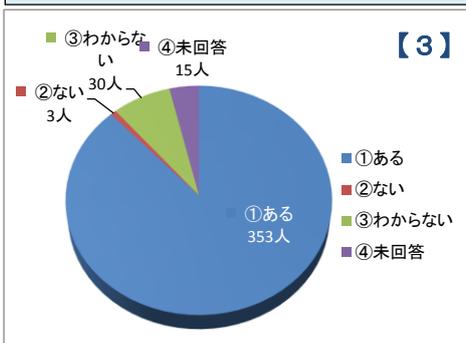
◆家族構成



【2】「在宅医療」や「在宅介護」についてご存知でしたか？



【3】「在宅医療」や「在宅介護」に関心がありますか？

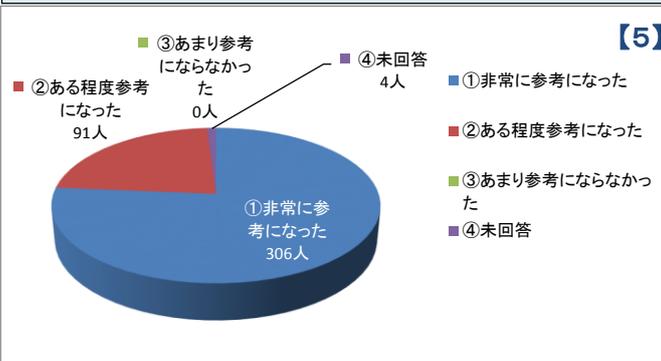


【4】あなたは、どこで最期を迎えたいと思いますか。



※「在宅医療」や「在宅介護」について、認知度(98.9%) 関心度(91.5%)と高い。また、約7割が自宅で最期を迎えたいと思っている。

【5】本日の永井先生の講演会は参考になりましたか？(1つ0)



左記【5】でお答えになられた理由を教えてください。

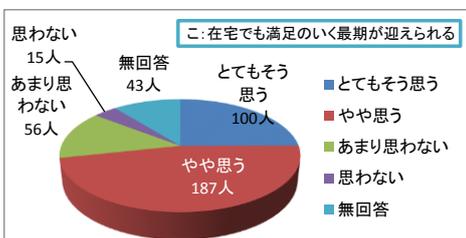
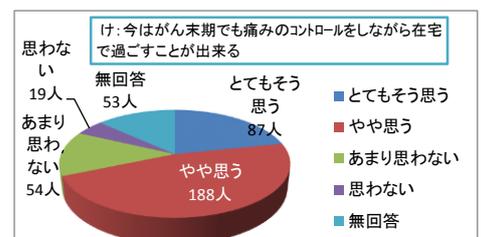
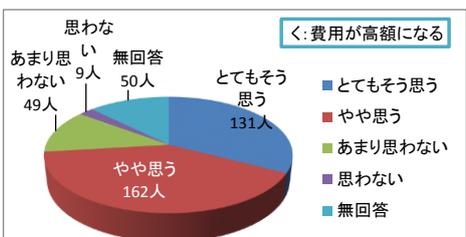
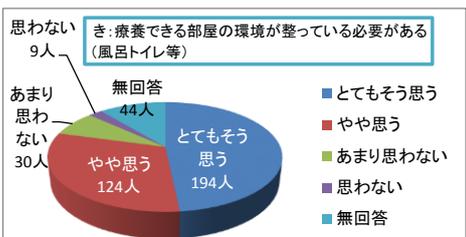
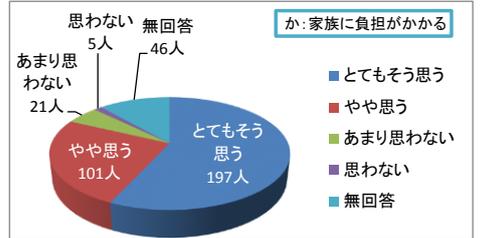
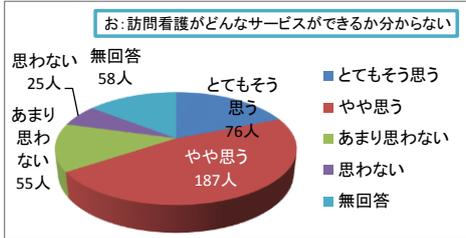
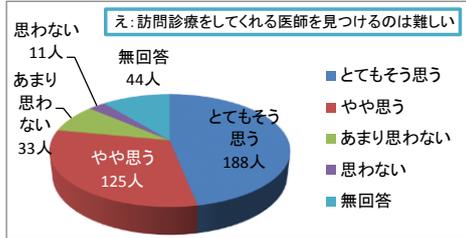
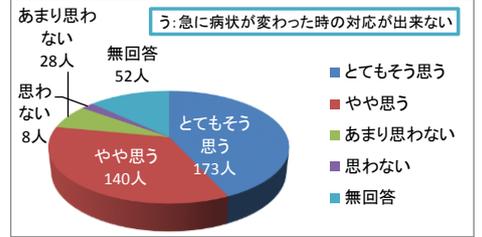
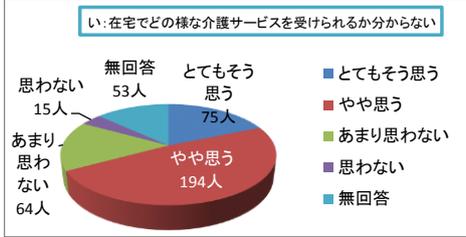
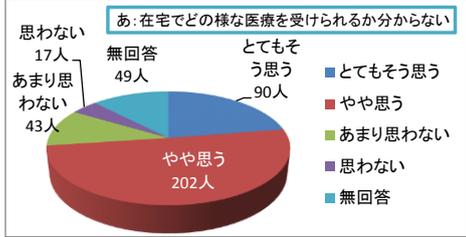
- ・在宅医療の中身が良く分かったから。
- ・「自分らしく生きる」という意味の内部が少し理解出来たように思います。
- ・在宅医療に対する意識が深まった。
- ・延命治療が本人にとって幸せだとは限らないという事を理解できた。
- ・家族への負担がどの程度かわからない事への不安
- ・過剰医療は本人のためにならない。
- ・昨年、白十字会の会合でこの話を聞いて必要性を感じていた。今回も医師が「患者を診る」ではなく患者の目線で医療に携わる取り組みに感動しました。
- ・核家族化の状況でどうなるのか難しい問題で、今は答えを出せない。
- ・両親が離れていますので今後の参考になった。
- ・在宅であるのは理想ですが介護離職の問題、収入の問題いろいろあると思います。特に佐世保は医療レベルが不十分だと思うのでそれを飛び越えて在宅は不可能かなと思います。
- ・あたりまえと思っていたことが間違っていた。在宅医療に興味がわいた。
- ・死について初めて向き合えたので感謝しました。
- ・家族地域の方にも聞かせたい
- ・医療に関する色々の考え方があることに「ハッと」気付かされました。
- ・在宅医療の良さが良く理解できた。

【6】永井先生の講演会について、特に印象に残った点などがありましたらお書きください。

- ・本人の意思を尊重する医療は、今後発展していくと思います。
- ・事例をもとに説明されたので分かり易かった。
- ・最後の1週間は点滴をしない方が楽になると言われた言葉が印象に残っている。
- ・点滴や胃瘻の良い所や悪い所が良く理解できた。食べる事の大切さ、食べなくなると死に向かう事を知った。死に向かう不安をいかに取り除くかが大切だと思った。
- ・看取りは息を引き取る瞬間を看取らなくても、看取りであるということ。叔母を看取ったときに妻が家にいたが叔母が息を引き取る瞬間に居合わせられなかったことを悔やんでいたため。
- ・『治す医療』から『支える医療』自分らしく生きたい。
- ・在宅医療は大変とまず頭に思うのですが本人の自宅看取りを望む姿を見て考え方が少し変わりました。
- ・「枯れるように往生する」の意味がよくわかりました。「亡くなる時間に看ていなくても良い」という言葉。
- ・治す医療から支える医療、その人にとって最善は何か、本人の幸せ最後まで食べる「これでいいのだ!」ともいい話でした。「もっと食べて少しでも長生きしてほしい、食べさせなくてはい」当時は精一杯の考えでした。これからの方には相談窓口や医療機関を広げて欲しい。家族が安心できるようになったら介護も少し楽になると思いました。両親を看送りこれを経験として地域の相談に役立てたいと思います。
- ・在宅医療は希望としては良いと思いますが病院の支えがあってのことだと思います。
- ・「自然に看る」ということに心が穏やかになりました。
- ・在宅医療は私も希望しますが医療関係が十分ではないので不安です。
- ・地域に根差した医療、ゆうの森みたいな所が、全国にもっと多くなりますように希望します。
- ・「終末期点滴の悪循環」・「食べたいものを食べたい時に食べたいだけ」・独居の方の自分での看取りも可能
- ・映像を交えた説明で非常解りやすかった。
- ・独居でも自宅在宅が出来ることに関して大変学習できました。点滴や胃瘻がなくてできることがすごい。
- ・点滴が患者を苦しめているということ、人それぞれの生き方に思いを寄せる事。
- ・点滴では人間らしい死に方ができない。亡くなる瞬間を誰かが見ていなくても良いというお話に父が亡くなったとき看取ってやれず申し訳ないという気持ちが壊れ楽になれました。
- ・看取りの大切さ、独居をどう看取れるのか、患者だけでなく家族も安心できる地域医療の大切さがよくわかった。
- ・最期までよりよく自分らしく楽しく生きる。
- ・在宅医療の在り方が良くわかりました。病院よりやはり自宅で天命を全うしたいと思いました。
- ・愛媛県のへき地で在宅医療とされていると言う事でその住民はとても安心して生活しているのだらうなあと思いました。やっぱり病院や施設で最期を迎えるより自宅を迎えたいのではないかなと思いました。

※永井先生の講演会は、回答者全員が参考になったと感じている。

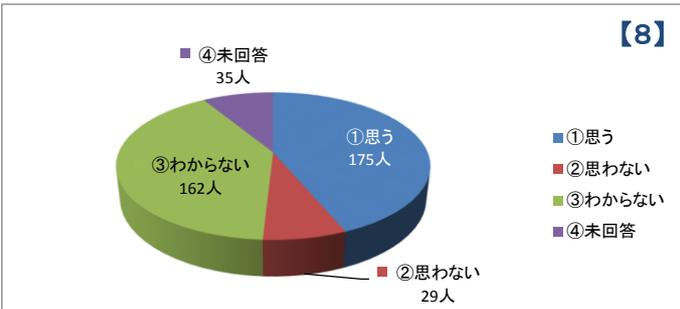
【7】在宅医療・介護について、どのような印象をお持ちですか？



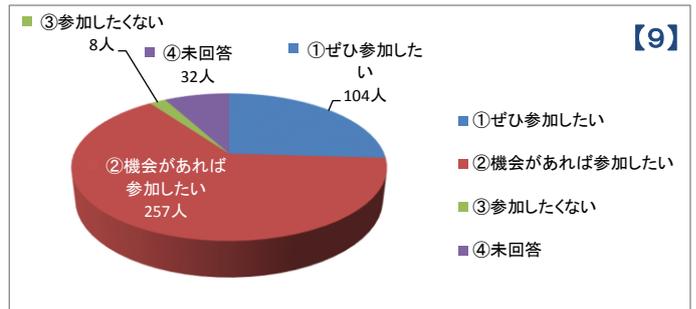
※【7】
 ◆在宅医療や介護のサービスについて認知度が低く、且つ、費用がかかると思っている人が多い。
 ◇一方で、在宅で満足のいく最期を迎えられると思っている人が多い。
 在宅で何が出来る、何が出来ないか、また、在宅医療・介護を受けることによる負担等について市民の認知度が低い結果であった。
 在宅医療・介護について市民に理解を深めてもらうための更なる活動が必要であると思われる。



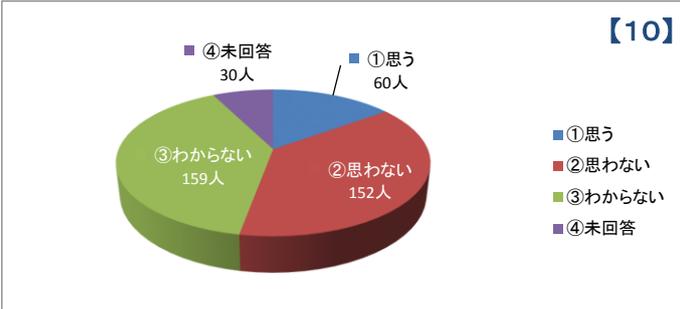
【8】在宅医療・介護を地域住民の方に、勧めたい(紹介したい)と思いませんか？



【9】今後、在宅医療・介護に関する講演会や勉強会等があれば参加しますか？



【10】佐世保市は医療や介護が充実していると思いますか？



【11】あなたは、日頃、医療についての知識や情報を何から得ていますか。(複数回答可)

